

謂宇都志國玉神宇都志三并有五名故此大國主神之兄弟八十神坐然皆國者避於大國主神所以避者中御祖命告子云可參向須佐能男命所坐之根堅洲國必其大神議也故隨詔命而參到須佐之男命之御所者中爾追至黃泉比良坂遙望呼謂大穴牟遲神曰其汝所持之生大刀生弓矢以而汝庶兄弟者追伏坂之御尾亦追撥河之瀨而意禮二字爲大國主神亦爲宇都志國玉神而其我之女須世理毘賣爲嫡妻而於宇迦能山三字之山本於底津石根宮柱布刀斯理此四字於高天原冰椽多迦斯理此四字而居是奴也故持其大刀弓追避其八十神之時每坂御尾追伏每河瀨追撥而始作國也

〔古事記傳九大穴牟遲神中御名の意は師説に穴是那の假字牟は母の轉れるにて大名持なり凡て古名の弘く長く聞ゆるを譽とすめれば天皇の宮所を遷し賜ひ御子おはしまさぬ后又御子たちは御名代の氏を定め又名背名根名妹など云万葉二に大名兒オホナゴなどあるも皆名高き由の美詞人に向ひて那牟遲ナムシと云も名持てふ言にて美る稱なりかくて此命は天下を作り治め知たまへる御名の世に勝れたれば大名持と美稱へ申せるなりとあり

〔日本書紀三武饒速日命本知天神慰懃唯天孫是與且見夫長髓彥稟性悞恨不可教以天人之際乃殺之帥其衆而歸順焉天皇武素聞饒速日命是自天降者而今果立忠効則褒而寵之

〔古今著聞集六管絃歌舞久安三年九月十二日法皇鳥天王寺へ御幸有けり内大臣御供に候はせ給ひけり十三日念佛堂にて管絃有けり歌并笛資賢笙内大臣筆篋俊盛朝臣中此外催馬樂有けるとかや朗詠今様風俗など數へん有けり資賢朝臣ぞつかうまつりける朗詠は法皇御發言有けるとぞ其後としよりあそん讀經つかうまつりけり人々興にせうじて覺遣信西楊眞操彈けり法皇のおほせに資賢は催馬樂のみちの長者なりとえいかん有けるは此たびの事也いかにめんぼくに思ひけん